

エコチル調査からわかってきたこと

全国で実施されているエコチル調査、新たな研究成果が各拠点から日々発表されています。今回は2025年に高知ユニットセンターから発表された研究論文を紹介します！

[研究実施者] 山崎 慶子 先生
高知大学医学部環境医学教室・
エコチル調査高知ユニットセンター特任助教
男の子2人の母 毎日子育てに奮闘中

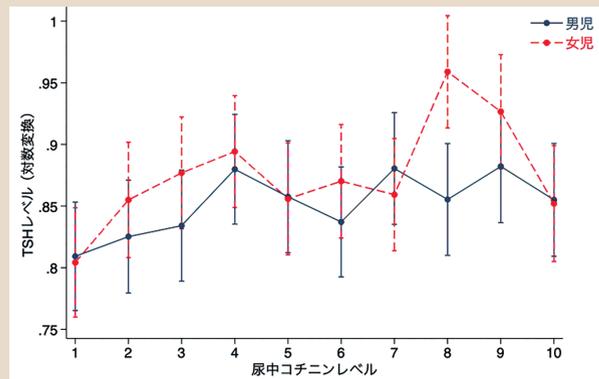


妊娠中のお母さんの喫煙が赤ちゃんの甲状腺に影響を与える？

赤ちゃんの体の中では、生まれる前から甲状腺という器官がはたらき始めています。甲状腺は、体の成長や脳の発達に関わる大切なホルモンをつくる場所です。甲状腺ホルモンは神経発達および体の成長に重要であり、血中甲状腺刺激ホルモン(TSH)レベルは甲状腺機能の指標^{※1}となります。今回の研究ではエコチル調査に参加した約5万人のデータを用いて、妊娠中のお母さんのタバコばく露^{※2}が新生児のTSHに影響を与えるのか性別毎に調べました。お母さんのタバコばく露の評価は尿中コチニン濃度を使用して評価しました。

その結果、お母さんの尿中コチニン濃度の上昇は、新生児のTSH値の上昇と関連しており、特に女兒においてその関連が顕著^{※3}でした。

妊娠中の母親のタバコの煙のばく露は、男女ともに子どもの血中 TSH レベルの用量依存的^{※4}な増加と関連していました。特に、高レベルの受動喫煙^{※5}にばく露された母親から生まれた女兒は、TSH レベルの上昇リスクが最も高く、新生児の甲状腺機能への潜在的な悪影響となる可能性を示しています。



山崎先生からのメッセージ message

今回の研究は妊娠中の喫煙が赤ちゃんの体に与える影響の一部を調べたものです。エコチル調査の開始以降、喫煙率は全体として減少傾向にあり、特に若年層での低下率が顕著です。これから先、お子さんが成長する中でタバコに触れる機会が出てくるかもしれません。タバコが体にもたらす影響は一面的ではなく、発達や健康にさまざまなかたちで関わる可能性があることを、ぜひご家族で共有していただき、防煙活動に取り組んでいただきたいです。

[言葉の説明]

- ※1指標：物事を判断したり評価したりする際の基準となる目印のこと
- ※2ばく露：生体が有害な物質や環境に「さらされる」こと
- ※3顕著：誰が見ても明らかであるほどはっきりと現れること
- ※4用量依存的：薬などの量が増えるにつれて、効果や障害が発生する可能性も増すこと
- ※5受動喫煙：他人のタバコの先端から立ち上がる煙(副流煙)や喫煙者が吐き出す(呼出煙)にさらされること

[発表雑誌名]

International Journal of Hygiene and Environmental Health
(衛生と環境保健の国際雑誌)

DOI: 10.1016/j.ijheh.2025.114544